

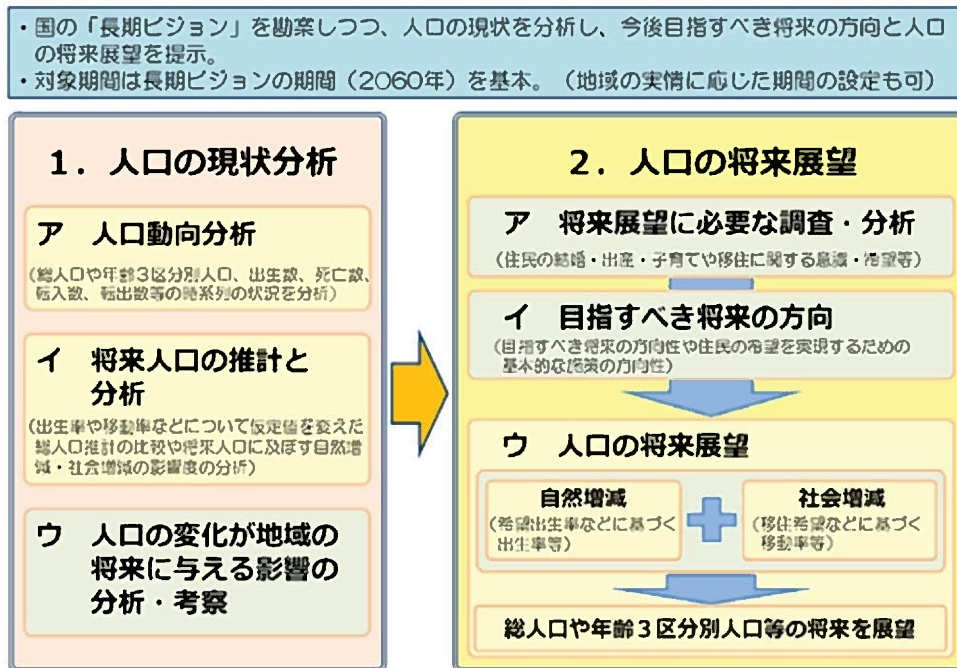
參考資料

人口ビジョン

(第1期と同様)

I 下市町の人口動向分析

人口ビジョンの全体像



人口動向分析についての基本的考え方

人口動向分析とは、現在に至るまでの人口変動の推移を把握するとともに、その変動要因である事実を捕捉して分析することで、人口の変動に対して講ずべき施策の検討材料を得ることを目的としています。

このため、時系列による人口動向の把握や年齢階級別の人口移動分析を行います。

1. 総人口の長期推移

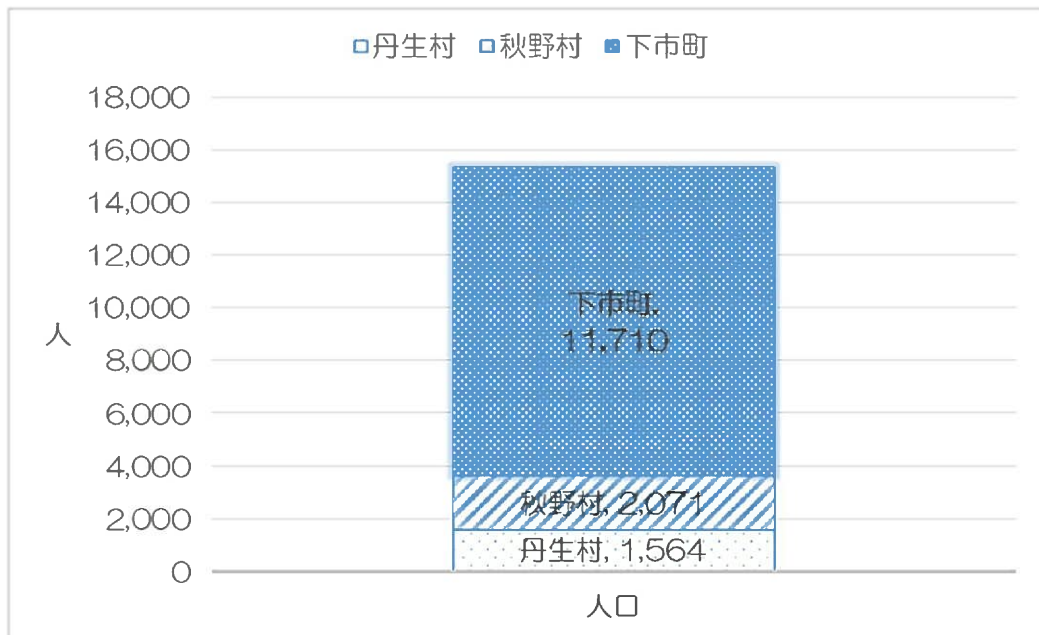
（1）下市町の人口に関する歴史

下市町の歴史を遡ると、明治 22 年に下市村、阿知賀村、小路村、新住村、栃原村、平原村、梨子堂村、原谷村、石堂谷村、栃本村、善城村の区域をもって下市村が発足し、明治 23 年に下市村が町制施行したことで下市町となりました。

また、昭和 31 年には、秋野村と丹生村を編入するという大きな動きがありました。秋野村は明治 22 年に吉野郡の四村、立石村、広橋村が合併し成立した村で、昭和 24 年には、黒滝村から大字の才谷を編入しました。一方、丹生村は明治 45 年に南芳野村が分割され、大字の丹生・長谷・谷・西山・貝原・黒木の区域をもって発足されました。

下記は、昭和 31 年に旧 2 村が編入される直前の国勢調査における人口です。

<1-1：昭和 30 年の国勢調査による旧町村の人口割合>



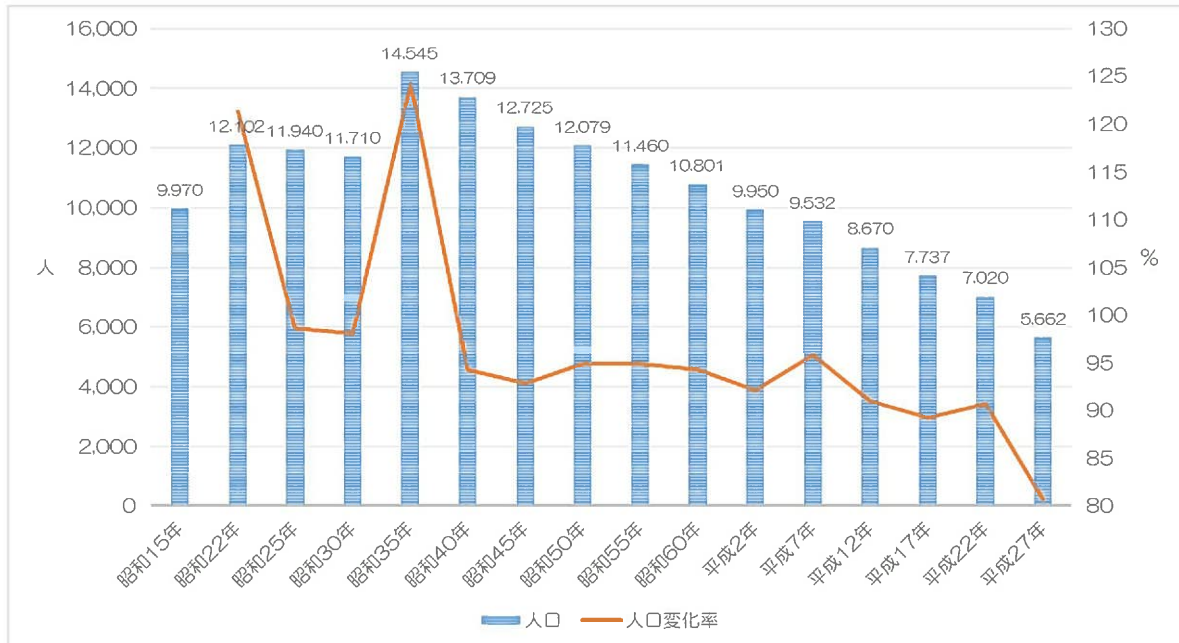
秋野村と丹生村を合わせて、当時の下市町の約 3 割もの人口が編入され、その結果、昭和 35 年の国勢調査では人口が 14,545 人となりました。

（2）人口の長期推移

下市町の昭和 15 年から現在までの人口推移は下記の通りです。

下市町においても他の多くの自治体と同様、戦後の復興やベビーブームに伴って昭和 22 年に人口が大きく増加し、昭和 15 年の 9,970 人から 12,102 人となっています。しかし、その後は年々人口が減少し、平成 27 年の国勢調査では 5,662 人となっています。

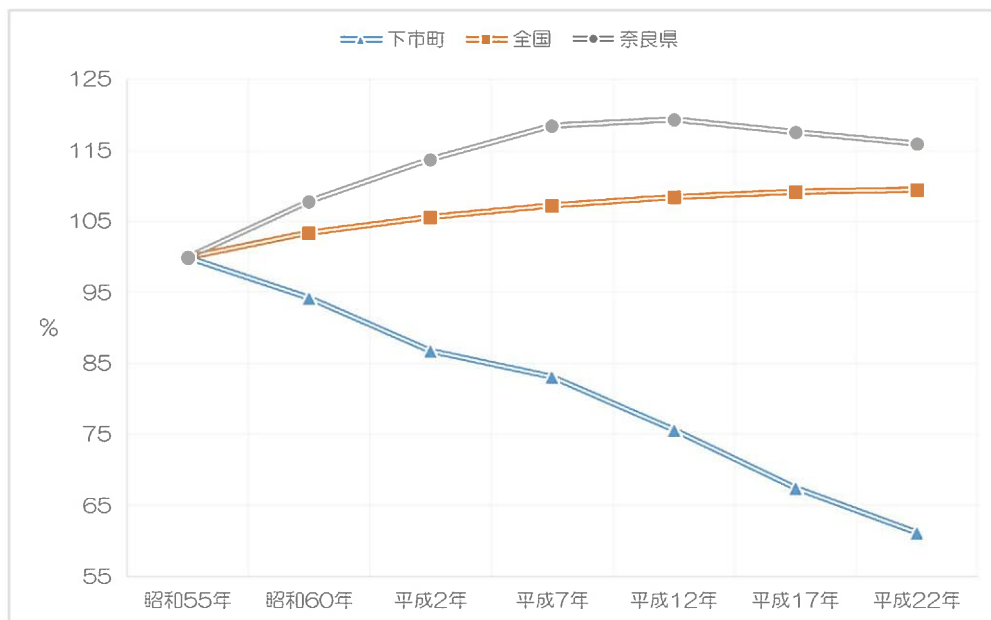
<1-2：人口と人口変化率の推移>



(出展：国勢調査)

次に、直近の人口減少について、全国的にはどのような人口推移であったかを下記のグラフで比較しています。昭和55年の人口を100とした場合の変化指数の推移を全国・奈良県・下市町で比較したものです。

<1-3：人口変化指数の推移>



全国では平成22年まで一貫して増加、また奈良県では平成12年までは上昇し、それをピークに緩やかに減少となっています。下市町では、昭和55年から約40%の人口が減少しています。

直近の人口推移について、全国・奈良県と比べると、下市町では大幅に減少という変動が見られました。この変動について、年齢別、男女別にもう少し詳細に分析します。

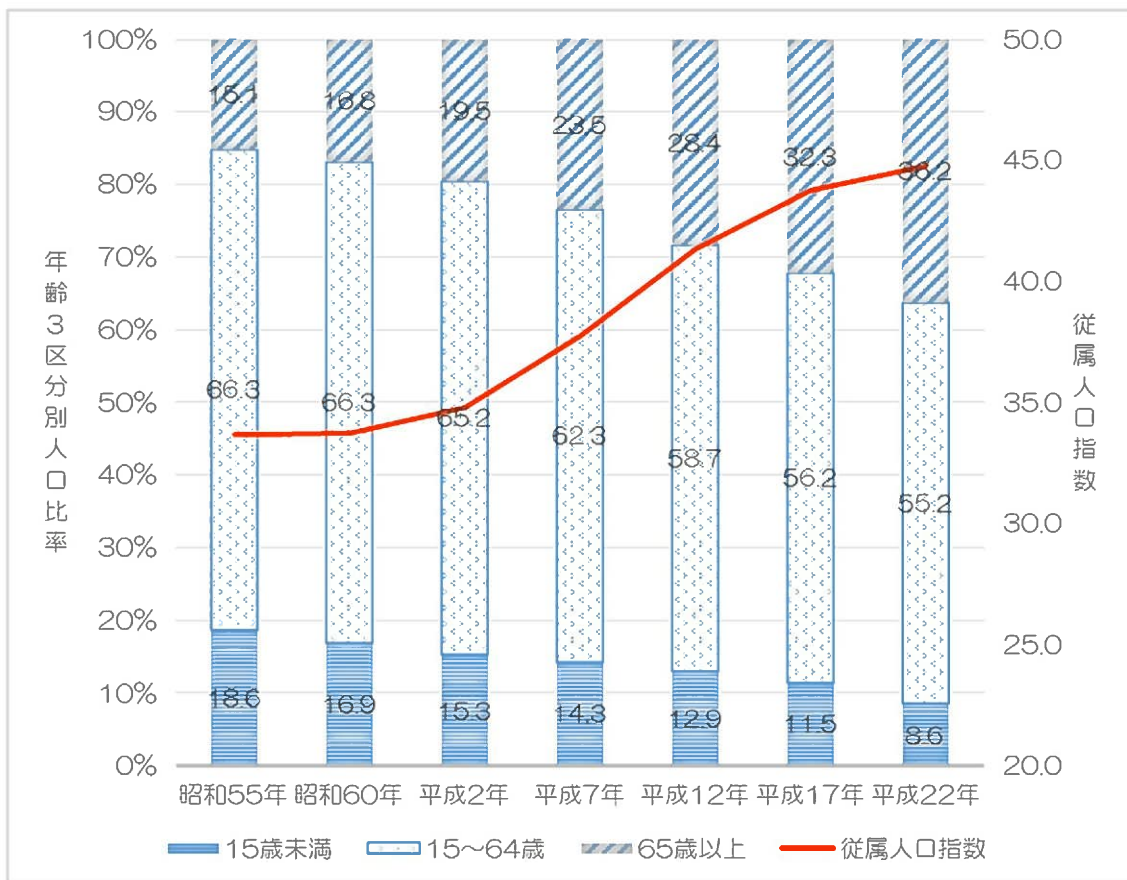
2. 年齢別人口動向

(1) 人口構成比

年齢3区分別の人口構造の推移についてみると、老年人口が昭和55年の15.1%から平成22年には36.2%と30年間で21.1ポイント増加しているのに対し、年少人口は18.6%から8.6%へと10.0ポイント減少しており、少子高齢化が進行していることがわかります。

また、従属人口指数は、昭和55年の33.7から平成22年には44.8まで増加しています。

<2-1：年齢3区分別人口構造と従属人口指数の推移>



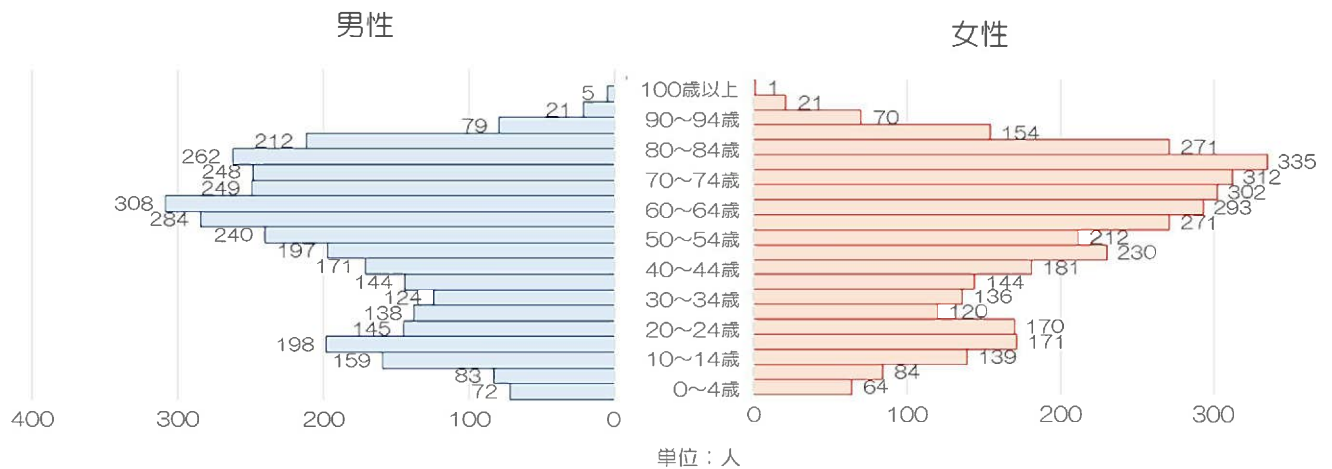
(出展：国勢調査)

従属人口指数とは、生産年齢人口（15～64歳）に対する年少人口（0～14歳）、老年人口（65歳以上）の合計の比率で、働き手である生産年齢人口100人が年少人口と老年人口を何人支えているかを示すものです。

	年齢層	昭和55年	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年
人口 (人)	合計	11,460	10,801	9,950	9,532	8,670	7,737	7,020	
	15歳未満	2,128	1,825	1,519	1,360	1,119	888	601	
	15～64歳	7,603	7,159	6,489	5,936	5,088	4,352	3,877	
	65歳以上	1,729	1,817	1,942	2,236	2,463	2,497	2,542	
構成 比 (%)	15歳未満	18.6	16.9	15.3	14.3	12.9	11.5	8.6	6
	15～64歳	66.3	66.3	65.2	62.3	58.7	56.2	55.2	
	65歳以上	15.1	16.8	19.5	23.5	28.4	32.3	36.2	
	従属人口指数	33.7	33.7	34.8	37.7	41.3	43.8	44.8	

平成22年の下市町の5歳階級別の人口構造をみると、男性では団塊の世代を含む60～64歳の人口が最も多く、女性では75～79歳の人口が最も多くなっています。また、男女別での5歳階級別人口構造により、バランスとして若干高齢女性が多いことが確認できます。さらに、下市町の特徴として、団塊ジュニアである40～49歳における人口減少が顕著です。これは、就職先や居住先を町外に求めて転出した結果と考えられ、若年齢層の人口規模がより一層縮小していることがわかります。

<2-2：男女別5歳階級別人口>



(出展：平成22年国勢調査)

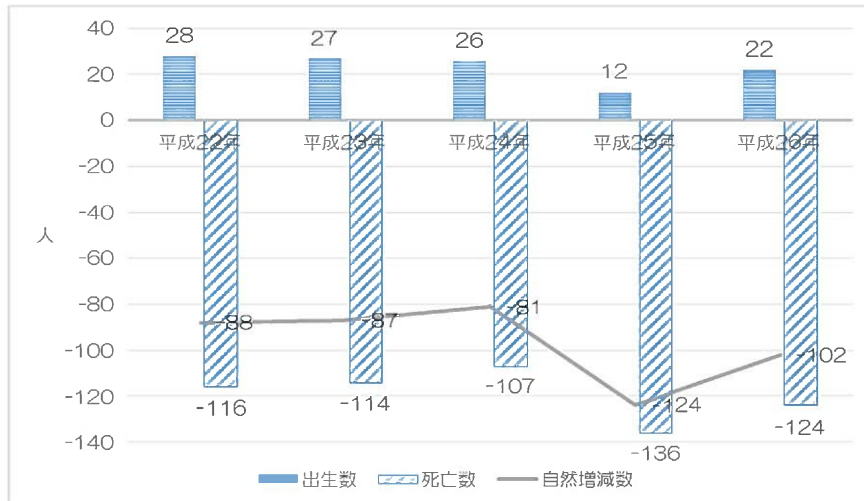
年齢別人口動向を分析したことで、生産年齢人口の減少が目立つ結果となりました。以降では、生産年齢人口の減少について、もう少し具体的に分析します。

3. 自然増減・社会増減による人口動向

(1) 自然動態

下市町の平成22年から平成26年の5年間の出生・死亡数をみると、出生数は年間30人弱程度だったものが、平成25年から不安定な推移となっています。また、死亡数も年々増加傾向にあり、平成25年は5年間で最多数の136人を記録しています。結果として、毎年100人超の自然減少が起きています。

<3-1：出生・死亡数の推移>

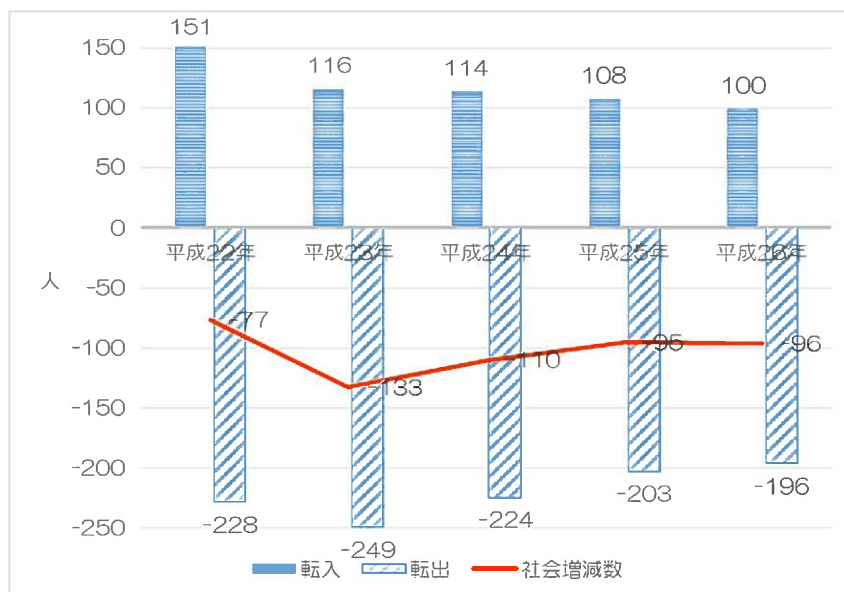


(出展：人口動態調査)

(2) 社会動態

下市町の平成22年から平成26年の5年間の転入・転出者数をみると、転入数は平成22年の151人から年々減少し、転出数は約200～250人程度で推移しています。直近の3年では転出数が少し緩やかであるものの、結果として年間約100人前後の社会減少が起きています。

<3-2：転入・転出者数の推移>



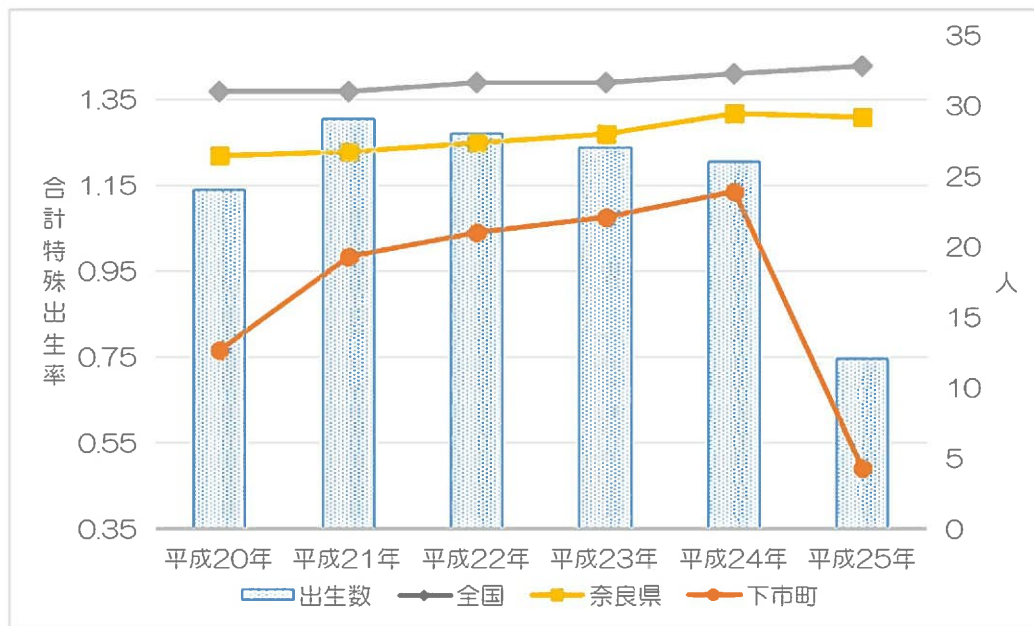
(出展：住民基本台帳)

4. 要因別分析

（1）出生数の状況

平成 20～25 年の 6 年間の合計特殊出生率の推移をみると、全国・奈良県は、1.2～1.4 台でほぼ横ばいで推移しています。一方、下市町は奈良県と比べても特殊出生率は低く、概ね 1.0 台で推移しています。平成 20 年から平成 24 年にかけて微増傾向でしたが、平成 25 年は出生数が 12 人と激減したため、合計特殊出生率は急激に低下しています。ただし、平成 26 年には出生数が 22 人と回復することから、この傾向は一時的なものと考えられます。

＜4-1：出生数と合計特殊出生率の推移＞

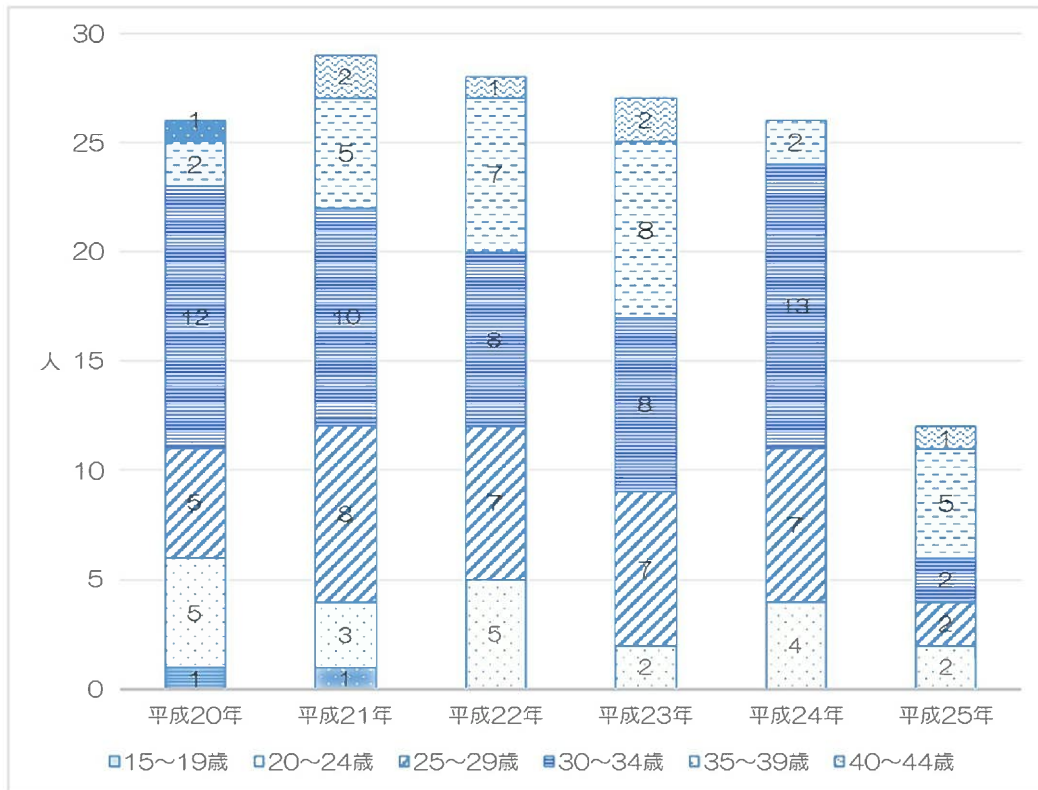


（出展：人口動態調査）

合計特殊出生率は、人口動態統計による母親の年齢5歳階級別出生数を住民基本台帳による15～49歳の5歳階級別の女性人口で除した値の合計をいいます。

次に、母親の年齢別出生数の推移をみると、平成21年をピークに減少し、平成25年は12人となっています。特に25～34歳の母親の出生数が大幅に減少しています。

<4-2：母親の年齢別出生数の推移>

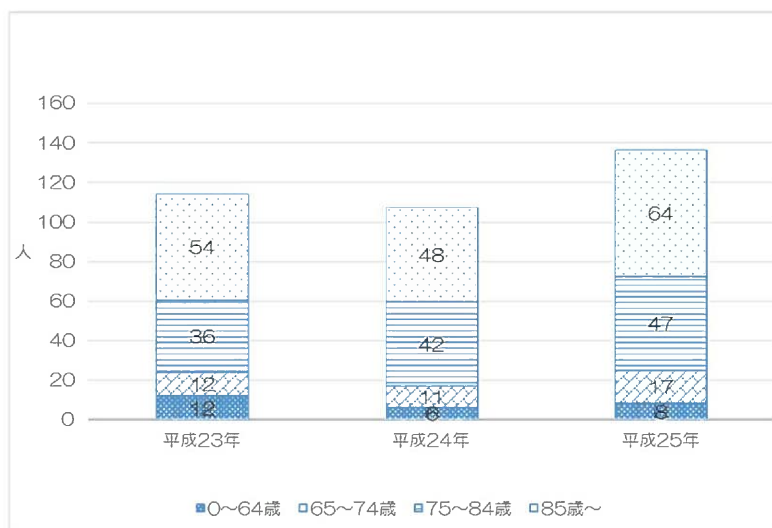


(出展：人口動態調査)

(2) 死亡数の状況

平成23年から平成25年の3年間の年齢別死亡数をみると、各年120人前後の死亡数の半数近くを85歳以上が占めています。

<4-3：年齢別死亡数の推移>

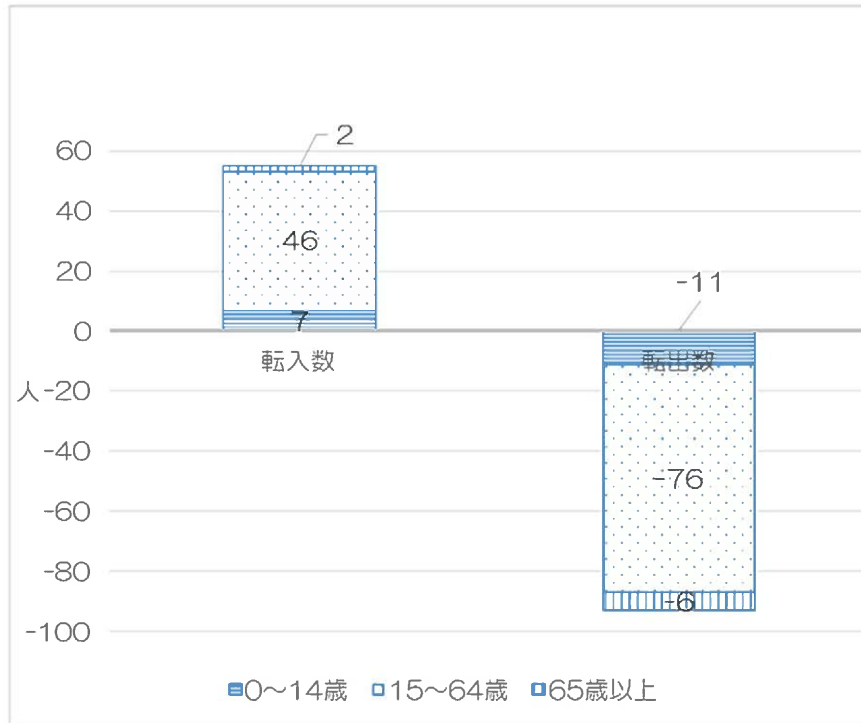


(出展：人口動態統計)

(3) 転入・転出の状況（男女別・年齢3区分別）

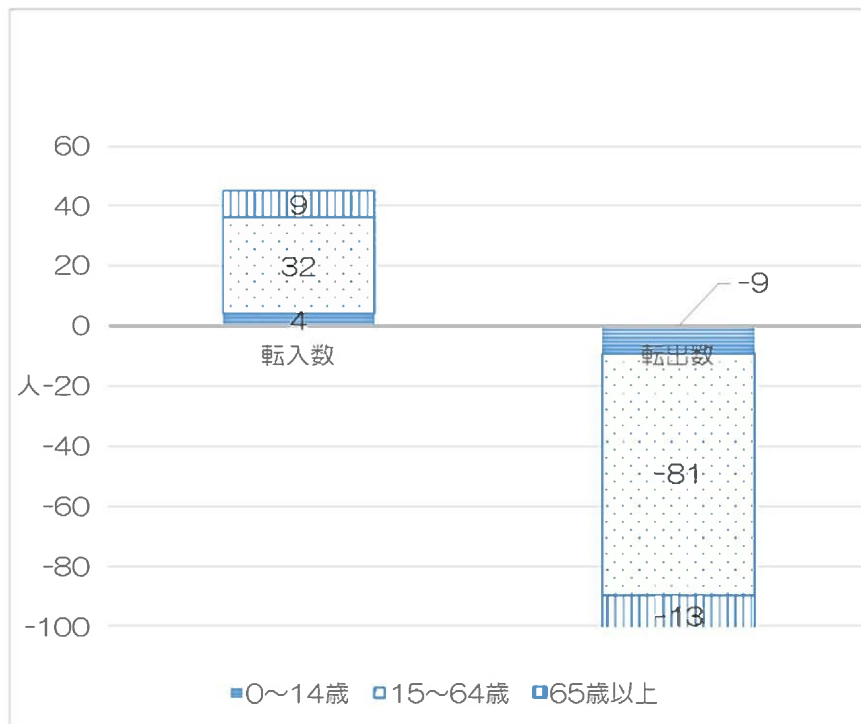
平成 26 年の転入・転出の状況を性別・年齢 3 区分別にみると、男女ともにすべての年代で、転出が転入を上回っています。

<4-4：男性・年齢 3 区分別の転入・転出の状況>



(出展：平成 26 年人口動態統計)

<4-5：女性・年齢 3 区分別の転入・転出の状況>



(出展：平成 26 年人口動態統計)

（4）転入・転出の状況（県内・県外の転入出者）

奈良県の公表による市町村別社会動態（平成 25 年 10 月 1 日～平成 26 年 9 月 30 日）では、県内からの転入者 56 人、県外からの転入者 54 人、県内への転出者 123 人、県外への転出者 90 人です。県外への転出者 90 人の内訳は下記の通りです。

<4-6：県外への転出者の内訳>

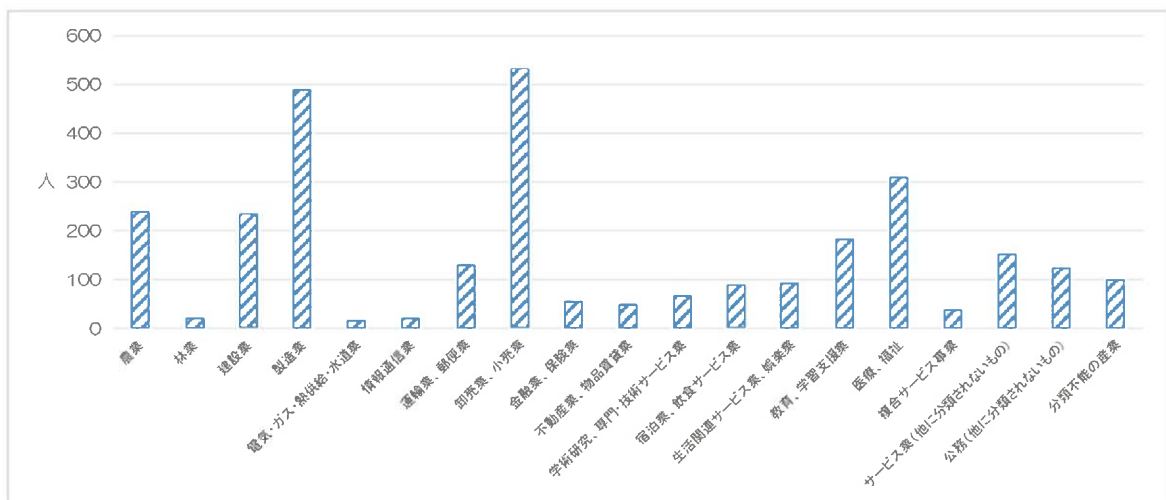
地区	転出先	転出者	地区	転出先	転出者
東北	福島県	1	近畿	滋賀県	4
	計	1		京都府	12
関東	埼玉県	1		大阪府	32
	千葉県	2		兵庫県	9
	東京都	0		和歌山県	1
	神奈川県	7	計	58	
	計	10	中国・四国	広島県	2
中部	山梨県	1		高知県	1
	静岡県	1		計	3
	愛知県	1	沖縄	沖縄県	1
	三重県	1		計	1
	計	4	その他	13	
計					90

5. その他の分析

（1）産業別就業者数

平成 22 年の下市町の就業者について産業分類別にみると、卸売業・小売業が 531 人と最も多く、次いで、製造業が 487 人、医療・福祉が 308 人と続き、この 3 つの産業で全体の約 45% を占めています。

<5-1：産業別就業者数>



(出展：H26 年度奈良県統計年鑑「市町村別産業分類別 15 歳以上の就業者数」)

6. まとめ

（1）人口減少における下市町の立ち位置

国の長期ビジョンでは、人口減少を大きく三段階に分けると、

ステージ 1：若年人口は減少するが、老年人口は増加する時期

ステージ 2：若年人口の減少が加速化するとともに、老年人口が維持から減少へと転じる時期

ステージ 3：若年人口の減少が一層加速化し、老年人口も減少していく時期

としています。

都市部における人口減少は、ステージ 1 に該当すると言われておりますが、下市町はすでにステージ 3 に入っていると考えられます。

（2）下市町における過疎化の原因

下市町は昭和 31 年に秋野村と丹生村を編入し、9 つの大字で形成されているにもかかわらず、その編入による効果が見られないことで、人口は減少の一途を辿っております。

平成 27 年の国勢調査では人口が 5,662 人と、この約 60 年間で 5 割以下に減少しています。

主な原因として、下記が挙げられます。

- ①町の約 8 割が森林であることから、林業や農業といった 1 次産業と木工品を主体とした地場産業により発展してきましたが、近年は需要変化に対応出来ず低迷し、町内での就職先が減少しました。その結果、団塊ジュニア世代が就職先を求めて町外へ転出することとなりました。
- ②周辺都市への通勤条件の悪さや、商店数の減少による日常用品の買物難、道路整備の遅れなどにより、奈良県下で就職しても、住居として下市町を選択する住民が減少しています。
- ③これからの下市町を担う若者が、高等教育機関への進学を契機とし数多く転出しますが、その後就職を機に U ターンすることなく、そのまま町外に出てしまう傾向にあります。

（3）直近の人口動態

人口動態は自然動態と社会動態に分けて検討できます。

①自然動態の影響

平成 22 年から平成 26 年の出生数の平均は 23.0 人、死亡数の平均は 119.4 人であり、純減数の平均は 96.4 人です。65 歳以上の高齢者数は年々増加し、老年人口の割合は直近の平成 22 年で 36.2%まで増加しており、死亡数の増加は今後も避けられない状況です。一方、15 歳～64 歳の割合は 55.2%であり、この層の減少を食い止めつつも、出生率を少しでも向上させ、少子高齢化の流れを緩やかにする必要があります。

②社会動態の影響

平成 22 年から平成 26 年の転入数の平均は 117.8 人、転出者の平均は 220.0 人であり、純減数の平均は 102.2 人です。男女別 5 歳階級別人口から、1970 年代に生まれた団塊ジュニアが転出していることが浮かび上がります。また、アンケート（一般用）の結果では、下市町に暮らし続けたいですかという問いに対して、「町外に引っ越す予定がある又は引っ越したい」と回答した方が 39.6%となっています。このため、転出数の増加を食い止めることこそ喫緊の課題となります。

Ⅱ 下市町の将来人口推計

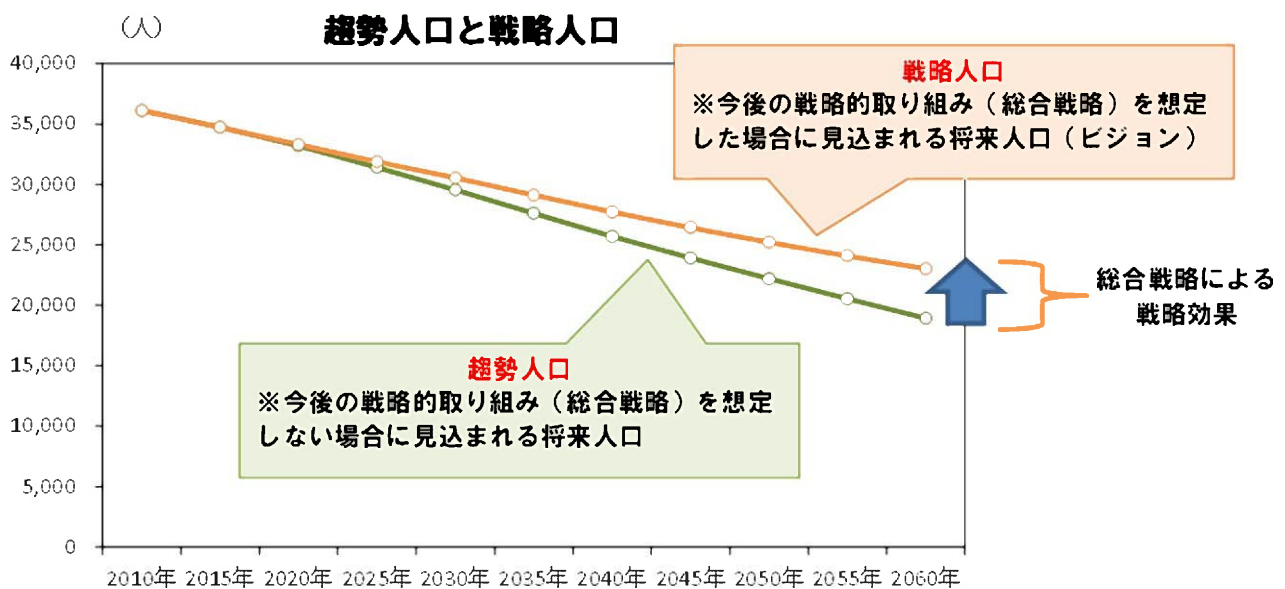
1. 将来人口の推計にあたって

(1) 趨勢人口と戦略人口

人口ビジョンにおいて設定する将来人口は、総合戦略による戦略的な人口政策の取り組みを前提とするものであり、そうした意味において戦略人口として捉えることができます。

こうした戦略人口の意義は、その前提とした戦略的な人口政策の取り組みを想定しない場合の将来人口（＝趨勢人口）と対比することにより、了解されるものです。

また、戦略人口の推計シミュレーションは、趨勢人口をベースに検討することになります。



一般論としては、国立社会保障・人口問題研究所（社人研）による推計人口を趨勢人口として扱うことが考えられますが、社人研による推計人口において既に実態との乖離が明白な事例も少なくありません。

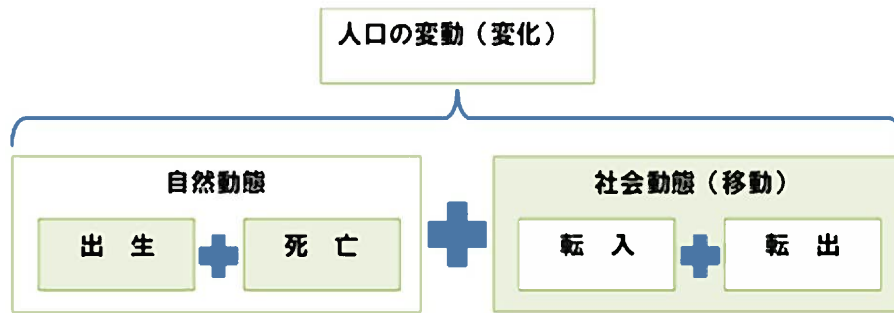
したがって、人口シミュレーションを行うに先立ち、社人研推計による 2015 年の推計人口が現状の実態と大きく乖離していないかを確認する必要があります。

(2) 国勢調査ベースによる現状人口と社人研による推計人口との比較

平成 27 年度の国勢調査の現状人口は、**5,662 人**となっており、社人研による 2015 年の推計人口 6,316 人を既に下回っています。この状況を踏まえ、社人研推計を推計人口ベースの実態により即した補正を行い、これを趨勢人口とすることとします。具体的には、社人研設定の純移動率をベースに、2015 年人口が 5,662 人となるように 2015 年までの純移動数を補正します。

（3）人口推計の基本的な考え方

①人口の変動（変化）は、出生・死亡・移動の3つの要素の変化によるものです。



移動（社会動態）は、転入及び転出による現象ですが、人口推計上はこれを区別することなく、転入と転出の差引の結果としての（純）移動数として考えます。

したがって、将来の人口推計を行うにあたっては、これらの人口変動の3要素の将来値をいかに設定するかがポイントとなります。

②人口推計は、上記の考え方を踏まえ、これに対応し得るコーホート要因法により行うものとします。具体の推計にあたっては、国が作成・配布した人口推計ツールを活用したシミュレーションを行っています。

2. 将来人口の推計シミュレーション

（1）下市町の趨勢人口の見通し

[社人研における推計]

国立社会保障・人口問題研究所（以下、「社人研」という）による推計は、次のような仮定に基づいています。

3要素	将来設定の基本的な考え方
出生	原則として、2010年の全国の子ども女性比（15～49歳女性人口に対する0～4歳人口の比）と各市町村の子ども女性比との比をとり、その比が平成27(2015)年以降2040年まで一定として市町村ごとに仮定。
死亡	原則として、55～59歳→60～64歳以下では、全国と都道府県の2005年→2010年の生残率の比から算出される生残率を都道府県内市町村に対して一律に適用。60～64歳→65～69歳以上では、これに加えて、都道府県と市町村の2000年→2005年の生残率の比から算出される生残率を市町村別に適用。
移動	原則として、2005～2010年の国勢調査（実績）に基づいて算出された純移動率が、2015～2020年までに定率で0.5倍に縮小し、その後はその値を一定と仮定。

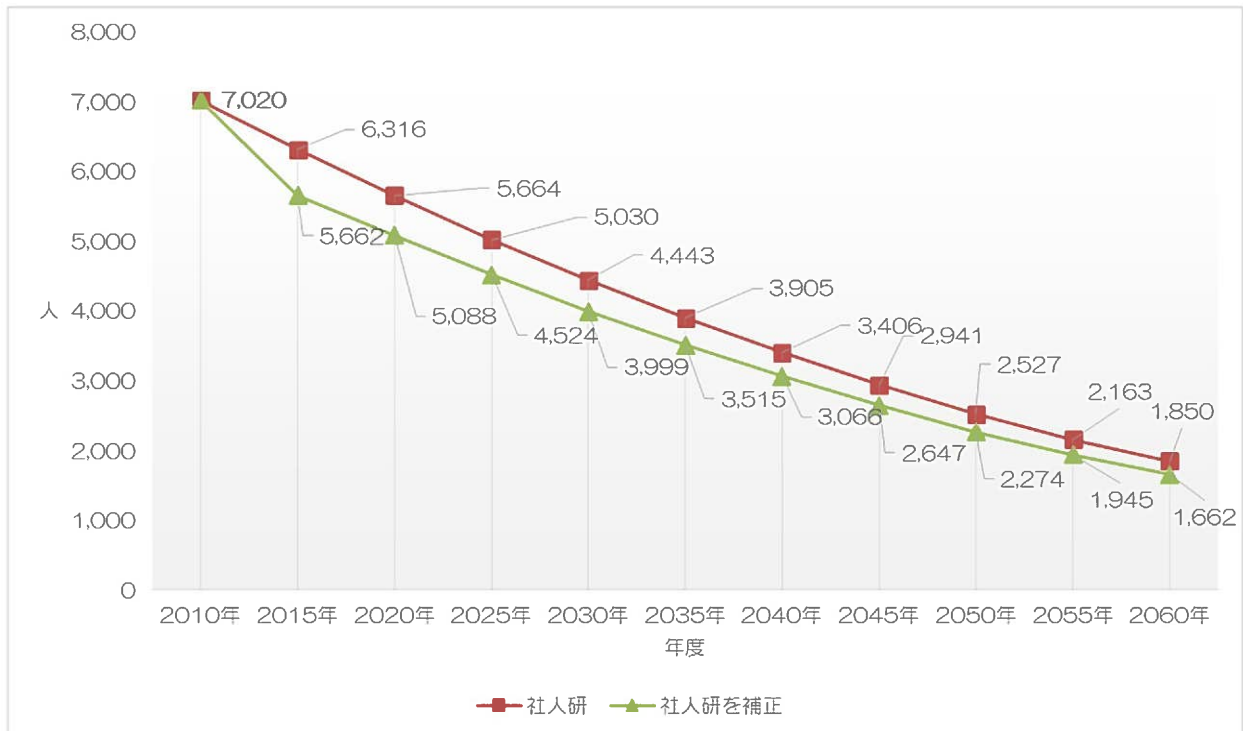
[社人研推計を補正した推計]

社人研推計をベースに、2015年時点の実態に即した補正を行った推計です。

3要素	将来設定の基本的な考え方
出生	社人研推計と同様。
死亡	社人研推計と同様。
移動	社人研設定の純移動率をベースに、2015年人口が5,662人となるように2015年までの純移動数を補正。

社人研推計を補正した趨勢人口でみると、下町の人口は、今後も減少傾向で推移し、2020年に5,088人、さらに2060年には1,662人程度にまで減少することが見込まれます。

<2-1：趨勢人口（社人研と社人研を補正した推計）>



（２）社人研推計を補正した趨勢人口を踏まえた将来人口シミュレーション

社人研推計を補正した趨勢人口をベースに、ここではいくつかの仮定に基づく将来人口シミュレーションを行います。具体的には趨勢人口をベースに、出生率と移動数の上昇を下記の３パターンのように仮定し、推計人口を実算出します。

[Sim1]

3要素	将来設定の基本的な考え方
出生	合計特殊出生率が5年間ペースで0.05ずつ上昇するものと仮定。
死亡	社人研推計と同様。
移動	年間10人ずつ移動数が回復すると仮定。

[Sim2]

3要素	将来設定の基本的な考え方
出生	合計特殊出生率が5年間ペースで0.1ずつ上昇するものと仮定。
死亡	社人研推計と同様。
移動	年間20人ずつ移動数が回復すると仮定。

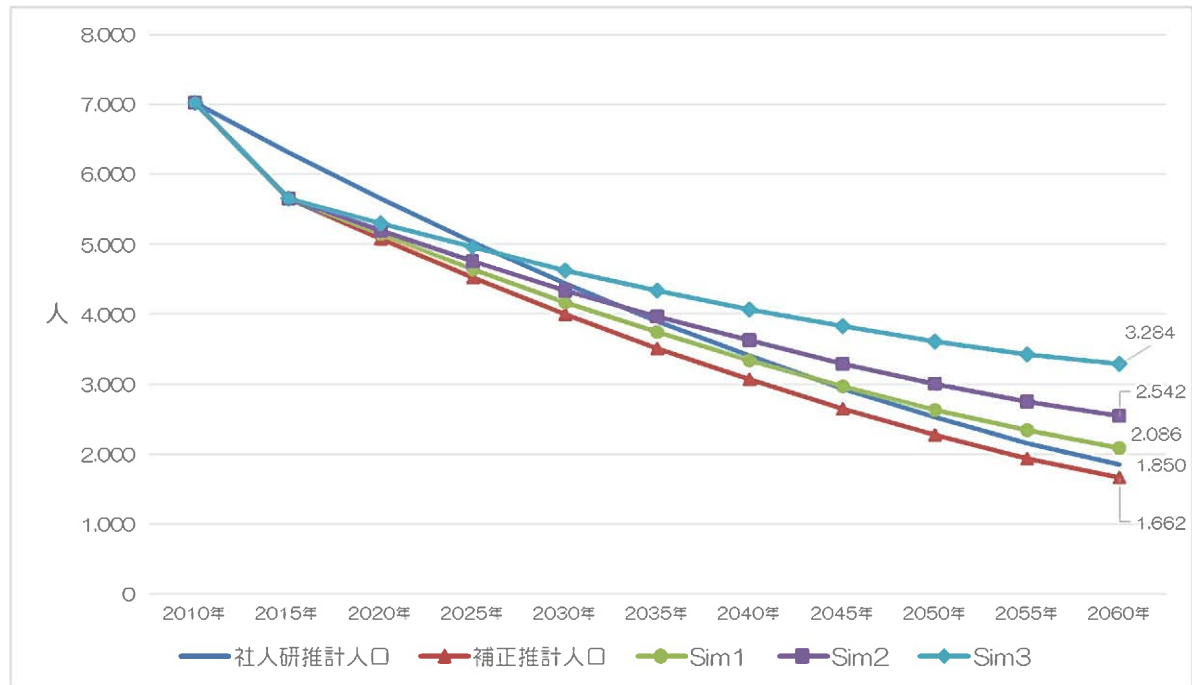
[Sim3]

3要素	将来設定の基本的な考え方
出生	合計特殊出生率が5年間ペースで0.15ずつ上昇するものと仮定。
死亡	社人研推計と同様。
移動	年間40人ずつ移動数が回復すると仮定。

[シミュレーション結果]

○シミュレーションの結果は、2060年の推計人口が Sim1では 2,086人、Sim2では 2,542人、Sim3では 3,284人程度となっています。

<2-2：シミュレーション結果（総人口）>



（単位：人）

パターン	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
社人研推計人口	7,020	6,316	5,664	5,030	4,443	3,905	3,406	2,941	2,527	2,163	1,850
補正推計人口	7,020	5,662	5,088	4,524	3,999	3,515	3,066	2,647	2,274	1,945	1,662
Sim1	7,020	5,662	5,148	4,644	4,174	3,743	3,342	2,967	2,632	2,337	2,086
Sim2	7,020	5,662	5,207	4,760	4,345	3,968	3,620	3,293	3,002	2,750	2,542
Sim3	7,020	5,662	5,310	4,958	4,632	4,340	4,074	3,823	3,605	3,422	3,284

①出生数の見通し

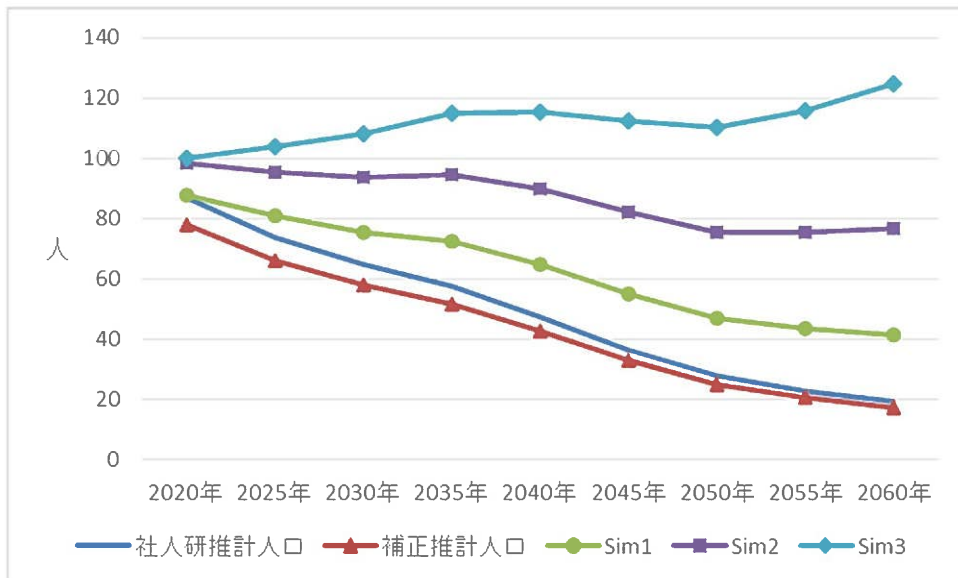
○出生については、次のような合計特殊出生率の仮定に基づいています。

（単位：人）

パターン	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
社人研推計人口	1.14	0.83	0.81	0.79	0.80	0.80	0.80	0.80	0.80	0.80	0.80
補正推計人口	1.14	0.83	0.81	0.79	0.80	0.80	0.80	0.80	0.80	0.80	0.80
Sim1	1.14	0.83	0.90	0.95	1.00	1.05	1.10	1.15	1.20	1.25	1.30
Sim2	1.14	0.83	1.00	1.10	1.20	1.30	1.40	1.50	1.60	1.70	1.80
Sim3	1.14	0.83	1.00	1.15	1.30	1.45	1.60	1.75	1.90	2.05	2.20

○補正推計人口では 2025 年以降の合計特殊出生率が 0.80 前後で推移することを想定していますが、若い年代層の減少に伴い、出生数は減少の一途を辿ることが見込まれます。

<2-3：シミュレーション結果（出生数）>



（単位：人）

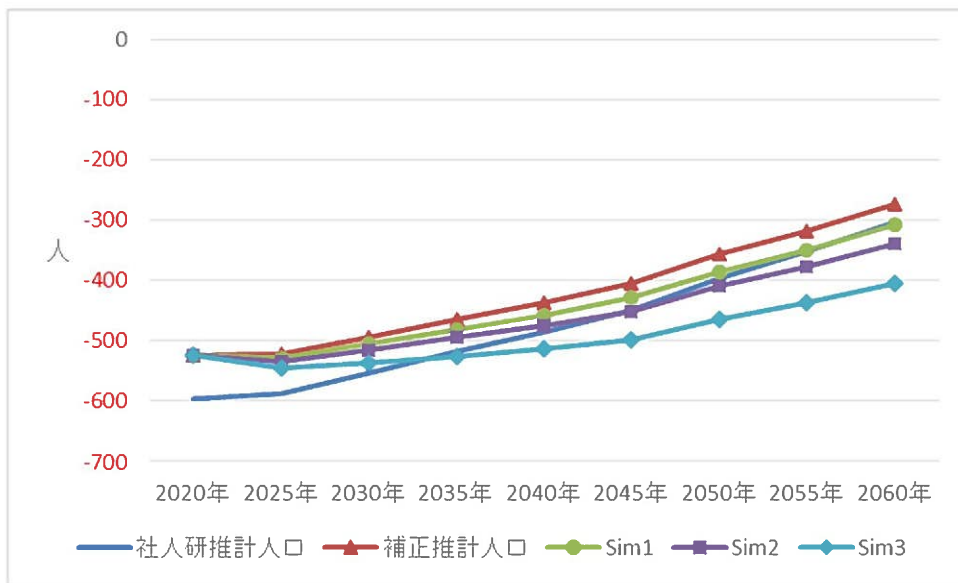
パターン	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
社人研推計人口	87	74	65	58	47	37	28	23	19
補正推計人口	78	66	58	52	43	33	25	21	17
Sim1	88	81	76	72	65	55	47	44	41
Sim2	98	96	94	95	90	82	76	75	77
Sim3	100	104	108	115	116	112	111	116	125

※0歳～4歳の合計

②死亡数の見通し

- 死亡数については、趨勢人口や各シミュレーションにおいて、いずれも社人研推計の設定を採用しています。
- 社人研設定においては、既に将来における平均余命の延伸等が織り込み済みとなっています。
- したがって、補正推計人口や各シミュレーションにおける死亡数の差異は、出生数や移動数の違いに基づくものです。

<2-4：シミュレーション結果（死亡数）>



(単位：人)

パターン	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
社人研推計人口	-597	-588	-553	-518	-485	-449	-396	-352	-304
補正推計人口	-525	-522	-494	-465	-437	-405	-357	-318	-274
Sim1	-525	-529	-506	-481	-457	-429	-385	-349	-308
Sim2	-525	-534	-515	-495	-474	-451	-410	-377	-339
Sim3	-525	-546	-537	-526	-513	-498	-464	-438	-405

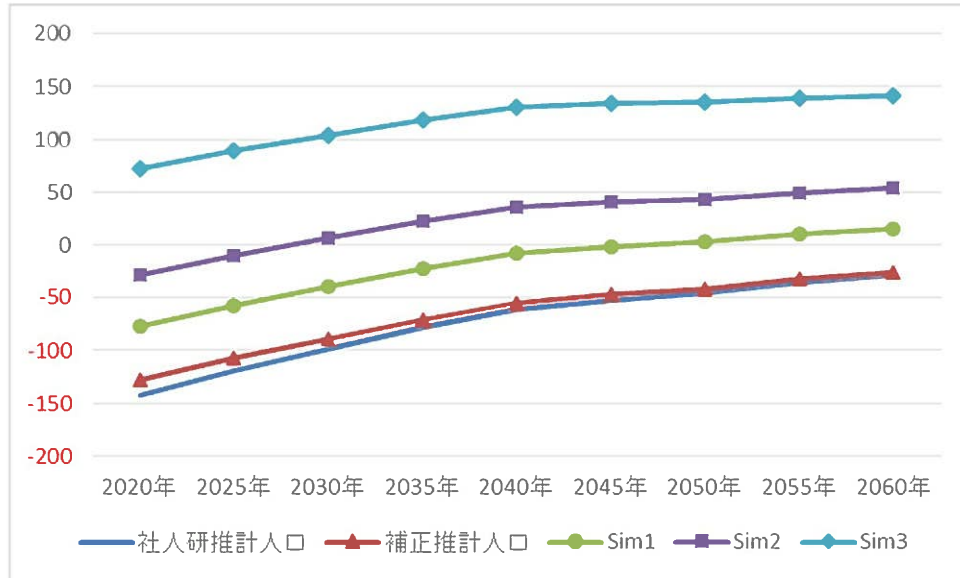
※5年の合計

③移動数の見通し

○社人研推計人口と補正推計人口では転出超過が想定されています。

○Sim1 では 2050 年に転入超過、Sim2 では 2030 年に転入超過、Sim3 では 2020 年に転入超過にシフトすることが見込まれます。

<2-5：シミュレーション結果（移動数）>



(単位：人)

パターン	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
社人研推計人口	-142	-119	-99	-79	-62	-52	-46	-35	-29
補正推計人口	-128	-107	-89	-71	-55	-47	-41	-32	-26
Sim1	-77	-57	-40	-22	-8	-1	3	11	16
Sim2	-29	-10	7	23	36	41	44	50	54
Sim3	72	89	104	118	131	135	135	139	141

④年齢構造別人口の見通し

○推計結果について、年齢構造別（単位：人）に示すと次のとおりです。

（単位：人）

パターン	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
社人研推計人口	7,020	6,316	5,664	5,030	4,443	3,905	3,406	2,941	2,527	2,163	1,850
0～14歳	601	412	336	274	228	200	173	145	114	89	72
15～39歳	1,490	1,332	1,164	1,003	824	611	449	373	314	265	224
39～64歳	2,387	2,010	1,656	1,419	1,222	1,137	1,057	938	819	677	502
65～74歳	1,111	1,095	1,063	890	758	663	537	441	381	374	405
75歳以上	1,431	1,466	1,445	1,444	1,411	1,295	1,190	1,045	900	757	647
補正推計人口	7,020	5,662	5,088	4,524	3,999	3,515	3,066	2,647	2,274	1,945	1,662
0～14歳	601	373	303	245	205	179	156	130	103	80	64
15～39歳	1,490	1,193	1,043	901	741	551	404	336	281	238	202
39～64歳	2,387	1,817	1,495	1,280	1,097	1,019	946	840	735	610	452
65～74歳	1,111	987	961	804	685	599	485	397	341	334	361
75歳以上	1,431	1,292	1,286	1,294	1,271	1,167	1,075	943	814	683	582
Sim1	7,020	5,662	5,148	4,644	4,174	3,743	3,342	2,967	2,632	2,337	2,086
0～14歳	601	373	315	273	250	235	220	199	173	152	138
15～39歳	1,490	1,193	1,054	921	769	594	464	412	375	348	322
39～64歳	2,387	1,817	1,509	1,307	1,135	1,066	1,002	905	807	689	543
65～74歳	1,111	987	969	820	708	628	519	435	382	378	408
75歳以上	1,431	1,292	1,302	1,323	1,311	1,219	1,138	1,016	894	770	676
Sim2	7,020	5,662	5,207	4,760	4,345	3,968	3,620	3,293	3,002	2,750	2,542
0～14歳	601	373	328	302	298	295	290	278	259	244	238
15～39歳	1,490	1,193	1,064	941	797	638	524	489	471	465	451
39～64歳	2,387	1,817	1,524	1,335	1,173	1,114	1,059	970	880	768	634
65～74歳	1,111	987	977	836	731	656	552	473	423	422	455
75歳以上	1,431	1,292	1,314	1,347	1,347	1,266	1,195	1,082	969	852	763
Sim3	7,020	5,662	5,310	4,958	4,632	4,340	4,074	3,823	3,605	3,422	3,284
0～14歳	601	372.755	334.019	318.627	328.937	344.674	357.412	361.944	357.312	357.586	370.39
15～39歳	1490	1192.74	1085.81	980.658	852.872	706.303	607.19	588.584	589.827	604.834	614.2
39～64歳	2387	1816.77	1553.77	1388.97	1248.94	1208.75	1171.76	1100.57	1024.94	925.847	802.528
65～74歳	1111	987.452	993.437	867.983	776.054	713.065	619.366	547.71	504.943	509.783	549.283
75歳以上	1431	1292.42	1343.04	1401.39	1425.49	1367.35	1318.03	1224.31	1127.61	1024.22	947.144

○推計結果について、年齢構造別（単位：人・％）に示すと次のとおりです。

（単位：人・％）

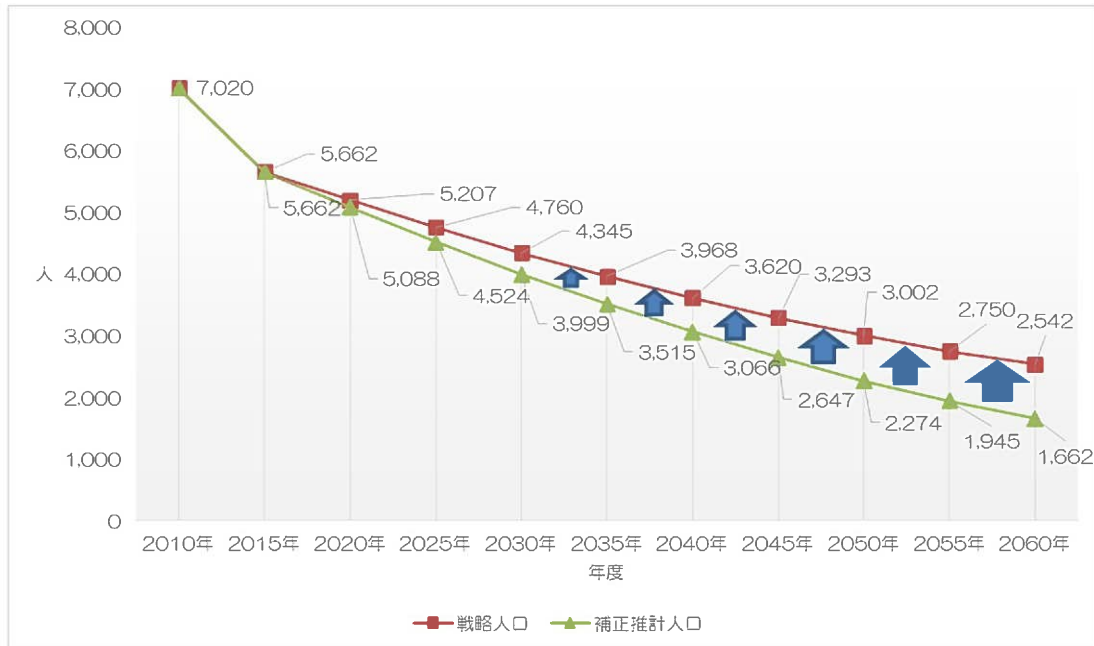
パターン	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
社人研推計人口	7,020	6,316	5,664	5,030	4,443	3,905	3,406	2,941	2,527	2,163	1,850
0～14歳	8.6%	6.5%	5.9%	5.4%	5.1%	5.1%	5.1%	4.9%	4.5%	4.1%	3.9%
15～39歳	21.2%	21.1%	20.5%	19.9%	18.5%	15.6%	13.2%	12.7%	12.4%	12.3%	12.1%
39～64歳	34.0%	31.8%	29.2%	28.2%	27.5%	29.1%	31.0%	31.9%	32.4%	31.3%	27.1%
65～74歳	15.8%	17.3%	18.8%	17.7%	17.1%	17.0%	15.8%	15.0%	15.1%	17.3%	21.9%
75歳以上	20.4%	23.2%	25.5%	28.7%	31.8%	33.2%	35.0%	35.5%	35.6%	35.0%	35.0%
補正推計人口	7,020	5,662	5,088	4,524	3,999	3,515	3,066	2,647	2,274	1,945	1,662
0～14歳	8.6%	6.6%	6.0%	5.4%	5.1%	5.1%	5.1%	4.9%	4.5%	4.1%	3.9%
15～39歳	21.2%	21.1%	20.5%	19.9%	18.5%	15.7%	13.2%	12.7%	12.4%	12.2%	12.1%
39～64歳	34.0%	32.1%	29.4%	28.3%	27.4%	29.0%	30.8%	31.7%	32.3%	31.3%	27.2%
65～74歳	15.8%	17.4%	18.9%	17.8%	17.1%	17.0%	15.8%	15.0%	15.0%	17.2%	21.7%
75歳以上	20.4%	22.8%	25.3%	28.6%	31.8%	33.2%	35.1%	35.6%	35.8%	35.1%	35.0%
Sim1	7,020	5,662	5,148	4,644	4,174	3,743	3,342	2,967	2,632	2,337	2,086
0～14歳	8.6%	6.6%	6.1%	5.9%	6.0%	6.3%	6.6%	6.7%	6.6%	6.5%	6.6%
15～39歳	21.2%	21.1%	20.5%	19.8%	18.4%	15.9%	13.9%	13.9%	14.2%	14.9%	15.4%
39～64歳	34.0%	32.1%	29.3%	28.2%	27.2%	28.5%	30.0%	30.5%	30.7%	29.5%	26.0%
65～74歳	15.8%	17.4%	18.8%	17.7%	17.0%	16.8%	15.5%	14.7%	14.5%	16.2%	19.6%
75歳以上	20.4%	22.8%	25.3%	28.5%	31.4%	32.6%	34.0%	34.2%	34.0%	33.0%	32.4%
Sim2	7,020	5,662	5,207	4,760	4,345	3,968	3,620	3,293	3,002	2,750	2,542
0～14歳	8.6%	6.6%	6.3%	6.3%	6.8%	7.4%	8.0%	8.4%	8.6%	8.9%	9.4%
15～39歳	21.2%	21.1%	20.4%	19.8%	18.3%	16.1%	14.5%	14.9%	15.7%	16.9%	17.7%
39～64歳	34.0%	32.1%	29.3%	28.0%	27.0%	28.1%	29.2%	29.5%	29.3%	27.9%	24.9%
65～74歳	15.8%	17.4%	18.8%	17.6%	16.8%	16.5%	15.3%	14.4%	14.1%	15.3%	17.9%
75歳以上	20.4%	22.8%	25.2%	28.3%	31.0%	31.9%	33.0%	32.9%	32.3%	31.0%	30.0%
Sim3	7,020	5,662	5,310	4,958	4,632	4,340	4,074	3,823	3,605	3,422	3,284
0～14歳	8.6%	6.6%	6.3%	6.4%	7.1%	7.9%	8.8%	9.5%	9.9%	10.4%	11.3%
15～39歳	21.2%	21.1%	20.4%	19.8%	18.4%	16.3%	14.9%	15.4%	16.4%	17.7%	18.7%
39～64歳	34.0%	32.1%	29.3%	28.0%	27.0%	27.9%	28.8%	28.8%	28.4%	27.1%	24.4%
65～74歳	15.8%	17.4%	18.7%	17.5%	16.8%	16.4%	15.2%	14.3%	14.0%	14.9%	16.7%
75歳以上	20.4%	22.8%	25.3%	28.3%	30.8%	31.5%	32.4%	32.0%	31.3%	29.9%	28.8%

Ⅲ 下市町の人口の将来展望

1. 下市町の戦略人口

ここまでの各種シミュレーションの結果などを踏まえ、下市町では、2060年の戦略人口として、2,500人以上規模の確保を想定しています。

以下では、戦略人口として前記のSim2による推計結果を示します。



2. 2060年に向けて

戦略人口の達成に向けては、地域における「しごと（雇用）」や下市町への新しい「ひとの流れ」を創出するとともに、出産や子育てに関する現実と理想とのギャップを解消するための「まちづくり」、人口減少時代に対応した地域社会を創り出すための取り組みを進める必要があります。

そうした取り組みを通して、下市町人口の減少を可能な限り抑えることにより、地域における消費の落ち込みを抑制し、雇用や労働力人口を確保し、地域経済・地域社会に対する人口減少の影響を最小限に留めていくことが重要となります。

そのためには、下市町における地域資源の発見・発掘・ブラッシュアップや地域の活力を生み出すための取り組みも重要になってきます。

こうした地域創生の取り組みを進めるに際しては、行政だけではなく、住民、地域団体、企業など産・金・官・学が連携し、自ら主体的に行動することが不可欠です。

下市町で暮らす住民が安全・豊かに過ごし、地域の豊かな資源と安心・快適な暮らしを次の世代へと受け継いでいくために、「総合戦略」では、戦略人口を達成するための地域創生の取り組みを明らかにし、その着実な遂行を図っていくこととします。

下市町
人口ビジョン・総合戦略

下市町 総務課

奈良県吉野郡下市町大字下市 1960 番地

電話：0747-52-0001 FAX：0747-54-5055